

第4回: ポストケインズ派経済学における 貨幣分析

担当者: 佐々木 啓明*

2010年5月18日

*京都大学経済学研究科. E-mail: sasaki@econ.kyoto-u.ac.jp

—貨幣供給の内生性—

■ポストケインズ派

貨幣は内生的に供給される。

需要が先にあって、それを満たすように貨幣が受動的に供給される。

中央銀行が直接コントロールするのは利子率。

■マネタリズムおよび新古典派

貨幣は外生的に供給される。

貨幣数量説に基づく。

中央銀行は貨幣供給量を直接コントロールできる。

→ どちらが正しいのだろうか？

—最近の主流派の考え方—

■新コンセンサス理論

ニューケインジアンの方.

貨幣は内生的に供給される.

中央銀行が直接コントロールするのは利子率.

テイラールール.

→ ポストケインズ派とどこが違うのか?

1. 貸付資金説を受け入れるか否か.
2. 金融引き締め政策の長期的な影響があるかないか.

—ポストケインズ派の貨幣分析の特徴—

貸出が先あって預金は後から生まれてくると考える。
ということは、準備がなくても銀行は貸し出すことができる。

■信用創造について

■信用乗数について

■なぜインフレーションが起きるのか

—外生的な利子率—

中央銀行はベンチマーク金利を決定する。利子率が政策変数。
日本では「無担保コール翌日物」の金利がベンチマーク金利。

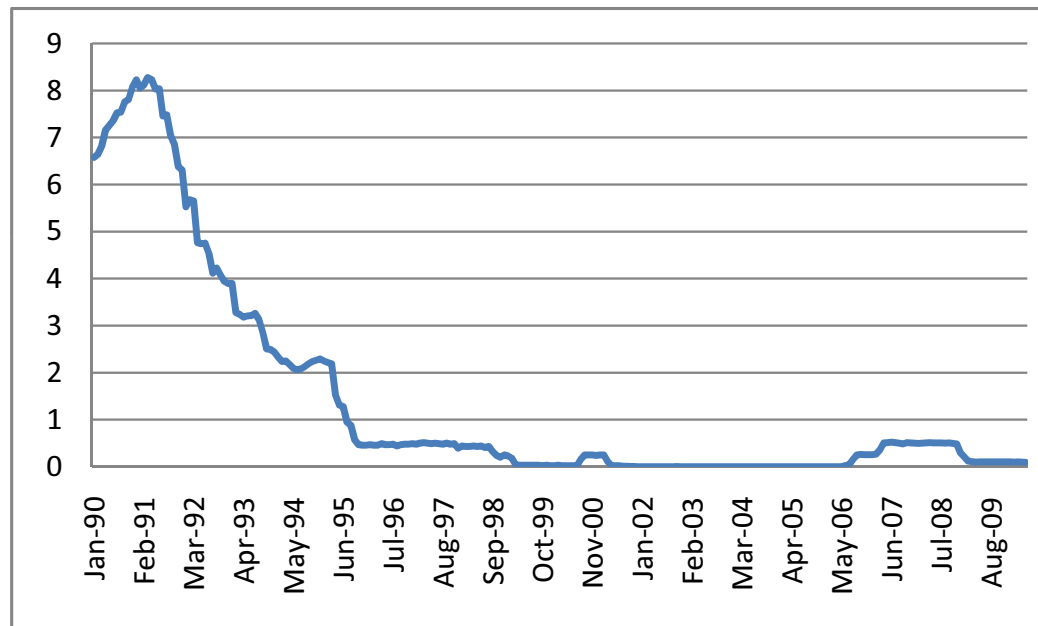


Figure 1: 無担保コール翌日物レートの推移。日本銀行の公表データから作成。

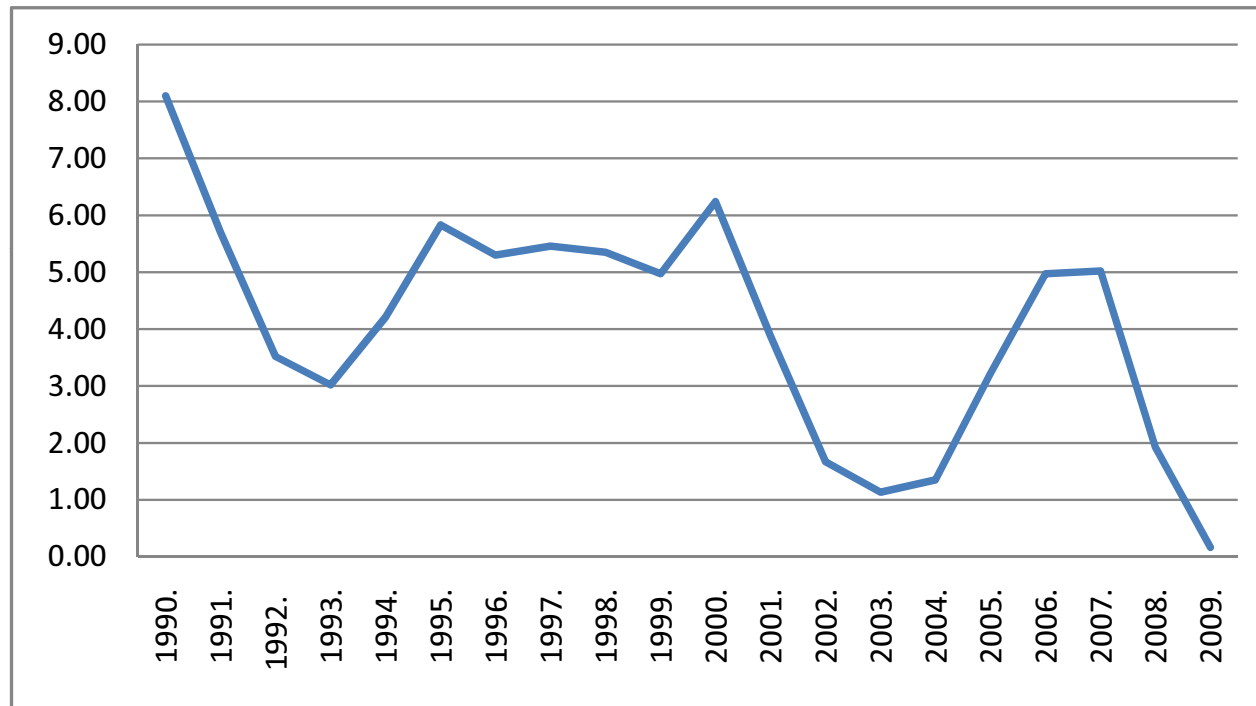


Figure 2: 米国のフェデラルファンドレートの推移. Economic Report of the Presidentから作成.

—内生的貨幣供給と外生的貨幣供給の違い—

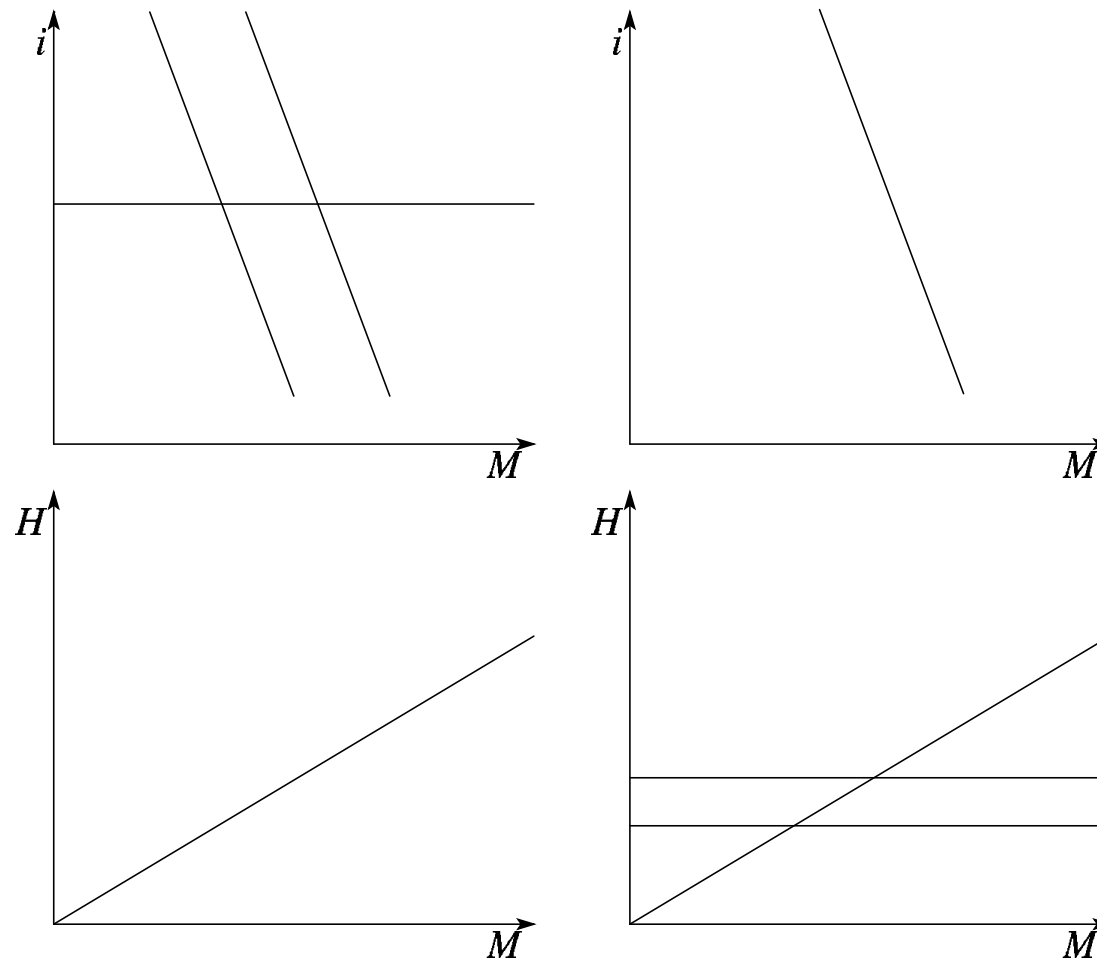


Figure 3: Horizontalist (左) と Verticalist (右)

—中央銀行の反応関数—

■ テイラー・ルール (Taylor rule)

1993年にStanford大学のJohn Taylor教授が発案した金融政策ルール。

$$i_t^T = r_t^E + \pi_t^T + \alpha(\pi_t - \pi_t^T) + \beta(y_t - y_t^P). \quad (1)$$

実質金利版だと次のようになる。

$$r_t^T = r_t^E + (\alpha - 1)(\pi_t - \pi_t^T) + \beta(y_t - y_t^P). \quad (2)$$